



2024年4月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年12月12日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2023年12月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年4月期第2四半期の連結業績(2023年5月1日～2023年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年4月期第2四半期	17,404		610		627		357	
2023年4月期第2四半期	17,871	0.9	1,245	33.9	1,285	11.7	827	37.0

(注) 包括利益 2024年4月期第2四半期 383百万円 (%) 2023年4月期第2四半期 804百万円 (35.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第2四半期	34.10	
2023年4月期第2四半期	79.05	

(注) 当社グループは2023年4月期に決算期変更を行っており、2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月決算となっております。これに伴い、前第2四半期連結累計期間(2022年3月1日～2022年8月31日)と当第2四半期連結累計期間(2023年5月1日～2023年10月31日)は比較対象期間が異なるため、2024年4月期第2四半期の対前年同期比については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年4月期第2四半期	20,405	16,500	80.9
2023年4月期	21,725	17,007	78.3

(参考) 自己資本 2024年4月期第2四半期 16,500百万円 2023年4月期 17,007百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期		0.00		85.00	85.00
2024年4月期		0.00			
2024年4月期(予想)				85.00	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年4月期の連結業績予想(2023年5月1日～2024年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,000		2,400		2,400		1,500		143.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 2023年4月期(前期)は2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月の変則決算となっているため、対前期増減率は記載しておりません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年4月期2Q	12,446,700 株	2023年4月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2024年4月期2Q	1,972,869 株	2023年4月期	1,972,691 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年4月期2Q	10,473,950 株	2023年4月期2Q	10,471,156 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社グループは前期となる2023年4月期に決算期変更を行っており、2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月決算となっております。これに伴い、前第2四半期連結累計期間（2022年3月1日～2022年8月31日）と当第2四半期連結累計期間（2023年5月1日～2023年10月31日）は比較対象期間が異なるため、対前年同期比については記載しておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の第5類への移行を受けて、インバウンド需要の回復を中心とした人流の回復が見られ、個人消費に持ち直しの傾向が見られました。しかしながらその一方で、社会情勢による原材料・エネルギー価格の高騰が長期に渡って継続する等、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する食関連業界におきましても、原材料費や物流費の高騰により多くの企業が商品の価格改定を余儀なくされたことで、生活防衛意識が高まり消費マインドが停滞する等、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、引き続き経営基盤の強化を固める一方、強みであるブランド力・専門性を更に深掘りすることで、商品・接客サービスによる差別化を図ってまいりました。

出退店・改装につきましては、「富山大和精肉店」「柿安ダイニング 富山大和店」等10店の出店、3店の退店及び3店の改装を行いました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,404百万円、営業利益は610百万円、経常利益は627百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は357百万円となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、2023年10月富山県の大和百貨店に「富山大和精肉店」を出店しました。また、惣菜事業で実施しておりますWEB予約サービス「カキヨヤク」に続いて、お肉専用のWEB予約サービス「ニクヨヤク」を開始いたしました。

出退店につきましては、1店の出店及び1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は6,621百万円、セグメント利益は497百万円となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、人気の牛タンにスポットをあてた『ごろっと牛タンシチューコロケ』や『やわらか牛タンサラダ〜トリュフ風味〜』等の新商品を展開しました。また、精肉事業の新店舗と同日に惣菜事業の新店「柿安ダイニング 富山大和店」を出店しました。

出店につきましては、2店の出店を行いました。

この結果、当事業の売上高は6,350百万円、セグメント利益は431百万円となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、メイン商品の『おはぎ』『団子』『どら焼』の他「巨峰」「マスカット」「和栗」等の秋にちなんだ『水まんじゅう』を展開しました。また、鳴門金時芋を100%使用した『スイートポテト』や季節のフルーツ大福『シャインマスカット大福』等、旬の食材を用いた魅力ある商品を取り揃えました。

出退店・改装につきましては、「口福堂山陽百貨店」等7店の出店、1店の退店及び3店の改装を行いました。

この結果、当事業の売上高は2,918百万円、セグメント利益は40百万円となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、グリル業態では秋の旬食材であるキノコを用いたハンバーグやハラミステーキ、フードコート業態ではとろろやにんにくをトッピングしたカルビ丼を提供しました。また、料亭業態では最高級のお正月おせち『極みおせち』の予約を開始する等、様々な施策を展開しました。

退店につきましては、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は759百万円、セグメント利益は24百万円となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、旬の食材を用いた『秋の香 松茸・栗入り 牛肉しぐれ』を展開し、前年を上回る好評を得ました。また、映画「ゴジラ」とのコラボ商品『料亭しぐれ煮詰合せ』を映画の公開にあわせて販売し、幅広い世代にご支持いただきました。

この結果、当事業の売上高は753百万円、セグメント利益は74百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,320百万円減少し、20,405百万円となりました。

流動資産は1,514百万円減少し、13,665百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少1,394百万円及び売掛金の減少208百万円と商品及び製品の増加43百万円等であります。

固定資産は194百万円増加し、6,739百万円となりました。主な要因は、工具、器具及び備品の増加138百万円及び建物及び構築物の増加98百万円と繰延税金資産の減少58百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ813百万円減少し、3,904百万円となりました。

流動負債は816百万円減少し、3,446百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少560百万円及び預り金の減少82百万円等であります。

固定負債は2百万円増加し、457百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の増加4百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ507百万円減少し、16,500百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益357百万円の計上による増加と剰余金の配当による減少890百万円等であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,394百万円減少（前連結会計年度比13.0%減）し、9,351百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は15百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益606百万円に対し非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入695百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額713百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は489百万円となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出600百万円、有形固定資産の取得による支出438百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は889百万円となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額886百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月期通期の連結業績予想については、当第2四半期連結累計期間の損益が予想値を下回ったことに加え、原材料価格並びにエネルギー価格の高騰及び人件費上昇の影響が当面継続するものと予想されることから、業績予想を修正いたします。詳細については本日（2023年12月12日）公表いたしました「2024年4月期第2四半期の業績予想と実績値との差異及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,345	9,951
売掛金	2,824	2,615
商品及び製品	398	441
仕掛品	422	432
原材料及び貯蔵品	167	184
その他	21	40
流動資産合計	15,180	13,665
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,107	2,206
土地	2,153	2,153
その他(純額)	615	750
有形固定資産合計	4,877	5,111
無形固定資産	188	181
投資その他の資産		
投資有価証券	131	183
繰延税金資産	298	239
差入保証金	614	604
退職給付に係る資産	243	230
その他	192	188
投資その他の資産合計	1,479	1,446
固定資産合計	6,545	6,739
資産合計	21,725	20,405
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,273	1,238
未払金	489	486
未払法人税等	842	282
契約負債	8	12
未払費用	945	883
賞与引当金	331	338
役員賞与引当金	15	7
その他	354	197
流動負債合計	4,262	3,446
固定負債		
資産除去債務	388	393
その他	66	64
固定負債合計	455	457
負債合計	4,718	3,904
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,080	1,080
利益剰余金	18,117	17,584
自己株式	△3,531	△3,531
株主資本合計	16,935	16,402
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7	30
退職給付に係る調整累計額	80	67
その他の包括利益累計額合計	72	98
純資産合計	17,007	16,500
負債純資産合計	21,725	20,405

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
売上高	17,871	17,404
売上原価	8,247	8,100
売上総利益	9,623	9,303
販売費及び一般管理費	8,378	8,692
営業利益	1,245	610
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	2
受取給付金	30	—
その他	8	15
営業外収益合計	41	17
営業外費用		
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	1,285	627
特別損失		
固定資産除売却損	4	21
特別損失合計	4	21
税金等調整前四半期純利益	1,281	606
法人税、住民税及び事業税	427	198
法人税等調整額	25	50
法人税等合計	453	249
四半期純利益	827	357
親会社株主に帰属する四半期純利益	827	357

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益	827	357
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	38
退職給付に係る調整額	△14	△12
その他の包括利益合計	△22	26
四半期包括利益	804	383
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	804	383

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,281	606
減価償却費	233	249
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4	7
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△25	△7
受取利息及び受取配当金	△1	△2
受取給付金	△30	—
固定資産除売却損益 (△は益)	4	21
売上債権の増減額 (△は増加)	△517	208
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△78	△70
仕入債務の増減額 (△は減少)	225	△35
未払金の増減額 (△は減少)	22	△24
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△79	△65
その他	60	△191
小計	1,090	695
利息及び配当金の受取額	1	2
法人税等の支払額	△807	△713
給付金の受取額	104	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	388	△15
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600	△600
定期預金の払戻による収入	600	600
有形固定資産の取得による支出	△211	△438
有形固定資産の売却による収入	—	6
投資有価証券の取得による支出	△2	—
差入保証金の差入による支出	△10	△6
差入保証金の回収による収入	49	10
その他	△14	△60
投資活動によるキャッシュ・フロー	△189	△489
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△2	△3
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△1,043	△886
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,045	△889
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△846	△1,394
現金及び現金同等物の期首残高	9,951	10,745
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,104	9,351

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約か ら生じる収益	7,058	6,120	3,102	769	821	17,871	—	17,871	—	17,871
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	7,058	6,120	3,102	769	821	17,871	—	17,871	—	17,871
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	932	7	14	1	562	1,517	—	1,517	△1,517	—
計	7,990	6,127	3,116	770	1,383	19,389	—	19,389	△1,517	17,871
セグメント利益	619	596	381	3	92	1,693	—	1,693	△448	1,245

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等
あります。2. セグメント利益の調整額△448百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
△465百万円及びその他調整額16百万円が含まれております。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約か ら生じる収益	6,621	6,350	2,918	759	753	17,404	—	17,404	—	17,404
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	6,621	6,350	2,918	759	753	17,404	—	17,404	—	17,404
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,018	0	18	2	543	1,583	—	1,583	△1,583	—
計	7,640	6,351	2,937	762	1,297	18,987	—	18,987	△1,583	17,404
セグメント利益	497	431	40	24	74	1,068	—	1,068	△457	610

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等
あります。

2. セグメント利益の調整額△457百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
△473百万円及びその他調整額16百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。